様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２８ 年　 ６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３２６４１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2015
課題番号：２５３７０７９４

研究課題名（和文）記録史料学の視座による中世系譜史料研究

研究課題名（英文）Reseach on the historical materials for genealogy from the viewpoint of archival science

研究代表者
白根　靖大（SHIRANE, YASUHIRO）

中央大学・文学部・教授

研究者番号：８０２５０６５３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、中世系譜史料の事例研究を積み重ねて個別事例の体系化を図ること、東北地方に現存する系譜史料の史料的価値を高めることを目指すものである。具体的には、公家系譜史料の基礎的考証、東北地方に現存する系譜史料および関連史料の分析を行い、記録史料学の長期的視座を取り入れて研究を進めた。その結果、公家社会において氏族を超えた系譜史料の共有が見られ、中には有職故実書というべき性格を持つ系図集があったこと、東北地方に現存する系譜史料は家伝文書とともに長期にわたり保有・相伝されたことなどを明らかにした。いずれも系譜史料のライフサイクルを見通した成果で、記録史料学の視座が有効であることを提起できる。

研究成果の概要（英文）：This research aims to advance a study on historical genealogy by examining the historical materials for genealogy from the viewpoint of archival science. In particular, this research focuses on the genealogical charts drawn up in medieval and early modern Japan.
As a result, it is verified that the genealogical charts were being possessed with the historical official documents certifying ancestors' remarkable service or inheritors' legitimacy from Muromachi to Edo Era. And it is worthy of notice that there is the genealogical chart compiled with the records of ancient customs at the Court. We can interpret this genealogical chart as the data base of names or people for noble families in medieval and early modern Japan. As for the extant genealogical charts in Tohoku District, they are the precious historical materials to research ancient and medieval Tohoku.

研究分野：日本中世史

キーワード：中世系図研究　中世史料学　系譜史料　系図　東北地域史　記録史料学

１．研究開始当初の背景

(１)中世系図研究

中世系図研究は近年進展の著しい分野となっている。具体的には、それまで副次的な扱いを受けていた系図を真正面に据え、その成立過程や機能などを明らかにして、系図が作成された時代や社会の特性を解明するという研究視角が定着し、この視角からの事例研究が積み重ねられてきている。その結果、系図の作成に関する基礎的考察や史料学的考証のみならず、系図から自己認識や家・氏族のアイデンティティを読み取る研究が見られるようになってきた。研究の進展によって、系図から中世人の心性を見出すことが可能になっているのである。

こうした研究は武家系図を主な対象としており、武家以外の系図の事例研究を進めることが次なる課題として指摘できる。

(２)中世史料学

中世史料学の課題の一つとして、系譜史料研究が挙げられている。系譜史料は、偽文書などと同様、従来真正面から研究対象とされてこなかったきらいがあり、このような諸史料の研究が中世史料学の進展に寄与するという指摘がある。特に、日本の系譜史料は世界的に見ても豊富であり、研究対象としての重要性が説かれている。したがって、系図を含む系譜史料の究明が、中世史料学のさらなる進展に寄与すると言える。

(３)東北地域史研究

東北地域史研究において、特に史料的制約を抱える古代･中世史では、その克服のため、系譜史料の活用が他の地域よりも進んでいる。だが、対象とされている系譜史料はまだ限定されており、系譜史料のさらなる発掘や史料学的考証が求められる。

一方で、災害に対応するための歴史資料保全活動の結果、未紹介の史料が発見されたという例がある。だが、そうした史料の整理はまだ途上であり、系譜史料の有無や内容の確認については、ほとんど手つかずの状況である。したがって、歴史資料保全活動の実態調査が、未紹介の系譜史料の発見につながる可能性を秘めている。

※本研究における「系図」「系譜史料」の意味するところは以下のとおり。

「系図」先祖代々を図式化して表したもの。人物について視覚的に伝えることに重きを置く。

「系譜史料」系図のほか、詳しい注記で人物の事跡を伝える「系譜」など、先祖代々について記す史料一般。

２．研究の目的

(１)事例研究

武家の系譜史料以外の事例として公家の系譜史料を対象に事例研究を行い、個別の系譜史料についてその史料的性格を明らかにする。また、東北地方に現存する系譜史料の事例研究を進め、その史料的価値を高めることによって、東北地域史研究に活用し得る系譜史料の拡大を図る。

(２)個別事例の体系化

個別事例の体系化につながる方法論の構築を目指す。具体的には、記録史料学の長期的視座を取り入れ、系譜史料のライフサイクルを見通すことによって、系譜史料の果たした歴史的役割を解明する。ひいては、系譜史料の史料的価値を高めることにつなげる。

(３)未紹介の系譜史料の探索

東北地方における歴史資料保全活動の実態調査を通し、未紹介の系譜史料を発見することに努める。新出史料が見つかれば、(１)と同様、事例研究の対象とし、史料的性格や史料的価値を明らかにする。

３．研究の方法

(１)史料調査・収集

公家の系譜史料については、宮内庁書陵部と東京大学史料編纂所に所蔵されているものを対象とする。東北地方に現存する系譜史料については、山形大学小白川図書館と秋田県公文書館に所蔵されているものを主な対象とする。東北地方における未紹介の系譜史料の探索については、宮城歴史資料保全ネットワークによって保全あるいは保管されている史料群を対象とする。

(２)史料の翻刻

収集した系譜史料は適宜翻刻する。このうち、系図については、視覚的情報という観点も踏まえ、原図を崩さないように配慮する。

(３)史料の分析

系譜史料の作成時期・作成主体・作成目的などについて、当時の歴史的背景を踏まえながら検討する。また、系譜史料の保有・相伝の実態を追い、系譜史料の機能に着目しながら、当該史料の歴史的意義を考察する。

(４)個別事例の体系化のための比較研究

まず、系譜史料を出自集団の範囲によって分類し、各々の史料的性格を明らかにする。次に、記録史料学の長期的視座を取り入れ、系譜史料のライフサイクルを見通し、系譜史料が作成・保有・相伝された意味を問う。

以上より明らかになった諸系譜史料の歴史的意義を比較検討し、系譜史料一般の史料的価値を追究する。

４．研究成果

(１)公家の系譜史料

①史料調査・収集

まず、宮内庁書陵部に所蔵されている系譜史料について、史料調査・収集を行った。収

集した系譜史料を出自集団の範囲によって分類すると以下のようになる。
〔系図集〕「諸家系図（谷森本）」「諸家系図（壬生本）」
〔氏系図〕「源氏系図（壬生本）」「源氏系図〈宇多源氏〉（壬生本）」「源氏系図〈村上源氏〉（九条本）」「藤氏系図（伏見宮本）」「藤原氏系図（柳原本）」
〔門流系図〕「藤氏系図草〈御堂流〉（九条本）」「藤氏系図〈御堂流・閑院流〉（桂宮本）」「藤原氏分流系図（壬生本）」
〔家系図〕「佐々木家系図（壬生本）」「室町殿御系図（九条本）」「平氏系図〈西洞院家〉」
〔目録〕「諸家系図目録（壬生本）」
次に、東京大学史料編纂所に所蔵されている系譜史料について、史料調査・収集を行った。収集した系譜史料を出自集団の範囲によって分類すると以下のようになる。
〔氏系図〕「菅氏系図」
〔門流系図〕「藤原氏系図〈南家巨勢麻呂流〉」
〔家系図〕「三条西家系図」

②史料の分析
収集史料のすべてに言及するには紙幅が不足するので、概要を記すことをお断りしておきたい。
まず、宮内庁書陵部所蔵の系譜史料は、中世後期～近世に作成あるいは書写されたものが大半である。内訳としては、諸家の系図を集めて編纂した系図集、源氏・藤原氏といった広範囲にわたる一族を収録した氏系図、藤原氏のうち御堂流など氏族の中の一つの流れを採録した門流系図、佐々木家・西洞院家などを記載した家系図に分類できる。
このうち「藤原氏系図（柳原本）」「藤氏系図草〈御堂流〉（九条本）」は、柳原家や九条家が自らの氏族である藤原氏に関する系図を作成あるいは書写したものである。一方、「源氏系図〈村上源氏〉（九条本）」や「藤氏系図（伏見宮本）」は九条家や伏見宮家が他氏族の系図を入手あるいは書写したものである。このように、公家社会において、氏族を超えて系譜史料が共有されていた様子をうかがうことができる。また、壬生家は多くの系図を有しており、系図を収集する家だったことがわかる。
次に、東京大学史料編纂所所蔵の系譜史料は、「藤原氏系図〈南家巨勢麻呂流〉」が室町時代、「菅氏系図」と「三条西家系図」が織豊期に作成あるいは書写されたものと考えられる。「菅氏系図」は氏系図、「藤原氏系図〈南家巨勢麻呂流〉」は南家巨勢麻呂流を採録する門流系図、「三条西家系図」は家系図に分類できる。
このうち「藤原氏系図〈南家巨勢麻呂流〉」には「仁和寺真光院」の印が押されており、寺院が保有していた系図であることが判明する。南家巨勢麻呂流から仁和寺に入った者が俗世における出自を示すために作成したか、仁和寺自体がこうした系図を集めていたか、いくつかの可能性が考えられる。

③比較研究
ここでは宮内庁書陵部所蔵の系譜史料のうち、二つの系図集に注目したい。
まず「諸家系図（谷森本）」は、諸家の系図を記した後、姓氏の名称や俗名で用いられる文字・読みの一覧を載せ、さらに都の大路・小路名や宮城図・殿舎名、百官名・官位相当一覧や五畿七道諸国の解説などを掲載している点が特徴である。通覧すると、これは単なる系図集ではなく、公家社会の人間にとっての教養書とでもいうべき内容を有している。系図部分はいわば人物名鑑であり、人名・人物の事跡が有職故実の一つとしてとらえられていたという評価が可能かもしれない。この系図集によって、系譜史料が有していた新たな歴史的意義が明らかになる。
次に「諸家系図（壬生本）」は、源平諸流と地下官人の諸氏を採録し、鎌倉幕府執権の北条氏を「先代」と表記している点、室町幕府将軍の足利氏について尊氏から義教までを「高－」「義－」のように表記している点が特徴である。こうした当該系図の内容は、以前研究対象にしたことのある東京大学史料編纂所所蔵の「古系図集」と一致する。この「古系図集」には異筆の追記が確認できるが、当該系図はそれを含めて全体が同筆で記されていることから、「古系図集」の写しである可能性が高い。また、「古系図集」の成立は 15 世紀初頭で、異筆の追記の下限は 16 世紀中期であり、「諸家系図（壬生本）」が 17 世紀前半頃の書写と見られるので、長期に及ぶ系譜史料のライフサイクルが明らかになる。さらに、「古系図集」は山科家に伝来したことが指摘されており、当該系図は壬生家が山科家伝来の系図集を書写して作成されたものと推定できる。
以上のように、公家の系譜史料の比較検討を通し、中世系譜史料の新たな一面が浮き彫りになってくる。

(２)東北地方に現存する系譜史料
①史料調査・収集
まず、山形大学小白川図書館に所蔵されている「中条家文書」所収の系譜史料および関連史料について、史料調査・収集を行った。系譜史料と関連史料に分けて記すと以下のとおりである。
〔系譜史料〕「三浦和田氏系図」「奥山庄羽黒・鷹栖・高野、加治庄相伝系図」「中条家由緒書」「中条越前守藤資伝記」
〔関連史料〕「三浦和田氏重書案」「黒川氏重書案」「羽黒義成申状具書案」「羽黒義成申状」「中条家文書目録」
次に、秋田県公文書館に所蔵されている系譜史料および関連史料について、史料調査・収集を行った。系譜史料と関連史料に分けて記すと以下のとおりである。
〔系譜史料〕「諸家御系図控」「岩城之系図」

「岩城之家譜」「岩城系図并雑記」「岩城伊達葦名系図写」「小野寺氏系図」「小野寺系図」「藤原姓小野寺系図」「藤原姓小野寺氏系譜」「藤原姓小野寺氏並枝流系図」「北酒出本源氏系図」「北酒出本古本佐竹系図」
〔関連史料〕「佐藤半蔵覚書」「佐藤半蔵覚書古筆」「人見氏覚書部分」「酒出金太夫季親家蔵文書」「秋田藩家蔵文書」

②史料の分析

まず、山形大学小白川図書館所蔵「中条家文書」所収史料について。主な系図は以前研究対象にしたことがあるので、本研究では由緒書や伝記などの系譜史料に対象を広げ、さらに系譜史料に関連する文書史料を抽出した。その中で「三浦和田氏重書案」が「三浦和田氏系図」に深く関わる史料として注目に値するので、これを取り上げることにする。

この「三浦和田氏重書案」は 30 通の文書を並べ記した具書（添付証文）で、三浦和田氏の所領・所職に関する先祖代々の相続・安堵を示したものである。作成時期は南北朝期で、当時の惣領三浦和田茂資が室町幕府に提出し、訴えが認められて返付されたものと見られる。その訴えを記す訴状は現存しないが、鎌倉末～南北朝期における三浦和田氏の境遇からすると、茂資から次代への相続のため、所領・所職の保証を幕府に求めたことが推定できる。

一方の「三浦和田氏系図」もまた代々の惣領が相続してきた所領・所職を記しており、前掲具書の目的に合致する内容となっている。さらに、系図の作成年代や作成主体も符合するうえ、両史料の筆跡が酷似している。したがって、両史料は一体のものとして作成されたと見なすことができる。

次に、秋田県公文書館所蔵史料について。以前研究対象にした佐竹氏一族に関する諸系図の中から「北酒出本源氏系図」と「北酒出本古本佐竹系図」に着目し、これらの系図を伝えた北酒出家伝来の「酒出金太夫季親家蔵文書」を関連史料として抽出した。また、岩城氏と小野寺氏に関する系譜史料と関連史料を研究対象に加えた。

このうち「酒出金太夫季親家蔵文書」は、室町幕府初代将軍足利尊氏の文書をはじめとして、美濃佐竹氏（のちの北酒出家）が受け取った安堵状・裁許状・軍忠状などの文書の写しを掲載している。いずれも美濃佐竹氏にとって画期となる出来事があったことを証明する史料で、近世においても子孫である北酒出家が保有・相伝すべき文書だった。これらの文書とあわせて保有・相伝された「北酒出本源氏系図」と「北酒出本古本佐竹系図」は、北酒出家のみならず、秋田藩主佐竹家にとっても、自家に関わる氏系図・門流系図として重要な系譜史料だった。

また「秋田藩家蔵文書」所収の小野寺氏関係史料の中に、改易後の小野寺氏と旧臣とのつながりを示す諸史料を見出すことができる。これらの関連史料から、近世に作成された現存の小野寺氏系図は、中世に先祖が仕えていた旧臣の子孫によって作成され、小野寺氏の子孫にも伝達されたことが判明する。

③比較研究

山形大学小白川図書館所蔵「中条家文書」所収史料と秋田県公文書館所蔵史料を比較すると、系譜史料と関連史料が長期にわたって保有・相伝されたという共通点を見出すことができる。

まず、「中条家文書」所収の「三浦和田氏系図」は南北朝期に作成された後、当初の役割を終えたにもかかわらず相伝された。後世、この系図は新たな系図作成の際に参考資料として活用されたことから、当初の役割とは別の機能を有するに至ったと言える。同様の系図は他にもあり、長期に及ぶ系図のライフサイクルが確認できる。一方「三浦和田氏重書案」もまた、当初の役割を終えた後も相伝され、家伝文書の一つとして保管されていった。こうした家伝文書は、三浦和田氏の子孫である中条家にとって重要な史料群だった。

次に、秋田県公文書館所蔵史料においても、「北酒出本源氏系図」「北酒出本古本佐竹系図」と「酒出金太夫季親家蔵文書」のような、中世から近世にわたる系譜史料と家伝文書を見出すことができる。これらは近世に秋田藩へ提出された史料群で、佐竹氏一族である北酒出家にとって、系譜史料と家伝文書がセットになって意味を持っていたと考えられる。

このように記録史料学的視点から見直すことによって、系譜史料の新たな一面を浮き彫りにできる。

（３）未紹介の系譜史料の探索

東北地方において未紹介の系譜史料を探索するため、宮城歴史資料保全ネットワーク（宮城資料ネットと略記する）が進めている歴史資料保全活動の実態調査を行った。

宮城資料ネットは、これまで被災した数多くの歴史資料を救出・保全してきており、中世文書を含む未紹介史料を発掘した実績もある。だが、東日本大震災後、保全すべき被災資料があまりにも膨大となり、資料紹介まで至らない歴史資料が多く保管されている。そうした状況下、資料整理を進めている段階の資料群も含め、調査させていただくことができた。

保管されている歴史資料のほとんどが近世・近代史料で、今回の調査中に中世史料を見出すことはできなかった。そうした中、近世に作成された系譜史料をいくつか発見し、可能な範囲で写真撮影を行った。被災状態の修復がまだ終わっていなかったため、史料の分析は今後に持ち越されたが、草稿と軸装された清書などが混在しており、近世における系図作成の過程を追える可能性を看取することができた。

（４）総括と今後の展望

まず、事例研究について。本研究において研究対象とした公家の系譜史料は、これまで本格的に分析されたことのないものがほとんどだった。各々の史料的性格や史料的価値の解明が基礎的な成果となる。また、東北地方に現存する系譜史料に関しては、同じ史料群に所収されている関連史料に着目し、系譜史料が作成された歴史的背景をより具体化させることができた。さらに、未紹介の系譜史料の探索の結果、近世のものではあるが、今後の研究の手がかりとなる系譜史料を発見した。

次に、個別事例の体系化について。本研究が導入した記録史料学の長期的視座は、系譜史料のライフサイクルを見通すことにつながり、系譜史料の新たな一面を浮き彫りにできた。したがって、系譜史料研究にとって、かかる視座が有効であることを提示できたと言えるだろう。

最後に、今後の展望について。東北地方に現存する系譜史料として研究対象としたのは、武家の系譜史料である。武家の系図研究が先行していることは「１．研究開始当初の背景」で述べたとおりで、本研究はその成果に記録史料学の長期的視座を導入し、当該分野の研究を一歩前進させた意義を持つ。今後さらに本研究の研究視角を様々な事例に援用することが、系譜史料研究全体の進展をもたらすであろう。

また、公家の系譜史料に関しては、事例研究が遅れているうえ、現存の系譜史料が比較的多いことから、今後も新たな成果を生み出す可能性が高い研究対象である。特に、豊富な家伝文書を残している公家の家に注目し、記録史料学の視座を取り入れた研究を進めることによって、新たな知見を得られるものと期待できる。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

白根靖大、中条家文書所収「三浦和田氏重書案」の基礎的考察、中央大学文学部紀要史学62号、2017年3月刊行予定、査読無

〔学会発表〕（計３件）

①白根靖大、清原氏と小野寺氏の歴史的位置付け、平成27年度後三年合戦シンポジウム、2015年12月20日、横手市役所南庁舎講堂（秋田県横手市）

②白根靖大、中世系図の史料論、東北大学国史談話会、 2015年6月13日、東北大学（宮城県仙台市）

③白根靖大・原美鈴、宮城歴史資料保全ネットワークにおける歴史資料保全活動、中央大学人文科学研究所公開研究会、2015年2月13日、中央大学（東京都八王子市）

〔図書〕（計１件）

白根靖大、高志書院、系図の中世史、刊行決定、230ページ予定

６．研究組織

(1)研究代表者

白根　靖大（SHIRANE Yasuhiro）

中央大学・文学部・教授

研究者番号：８０２５０６５３

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし